



JAL グループ 10 乗組

2008年6月10日

日本航空本社長に対して「要請文」を提出

日本航空グループ7社の10乗員組合で構成される連絡会議「J10」は、2008年6月10日、JJ労組(*)の多大な支援を得て、JAL本社にて西松日本航空グループCEO(兼)社長、日本航空インターナショナル社長に対して「要請文」(JALグループ5社社長への写し)を提出しました。

* 日本航空インターナショナル内の日本航空機長組合、前任航空機関士組合、日本航空乗員組合、JAL ジャパン乗員組合、日本航空キャビンクルーユニオン、日航労組、JAL ジャパン労組の7組合で組織



「J10」は2006年から活動を開始し、月一回の全体会議を東京や各地にて開催して各組合間で情報を共有しながら諸問題に取り組み、親睦を深めてきました。

JALグループの各乗員組合が現在直面している問題として、安全問題、過酷な勤務状況が放置されている問題、労働の対価として相応しくない賃金問題、将来展望が持てない乗員養成問題等があります。またJALグループ内乗員がANAグループ等の他社へ流出している現況は、経営も認めているように極めて深刻で異常な事態です。

安全運航を確保するためにも、低下の一途を辿るグループ内乗員のモチベーションを向上させなければならないとの考えから、以下に示す要請事項を「J10」の各乗員組合にて確認して要請に至りました。

1. JAL Group 内の労働条件向上
2. 将来展望を持てる長期的乗員養成計画の策定

経営能力の稚拙さによる多大な負債を、社員の賃金カットという方法でしか補えない会社のトップは自分たちの経営能力の無さを認めようともせず、謝罪することもせず、自分達の立場を犠牲にすることもせず、社員の声を黙殺し続けています。この先も同じような無責任な経営姿勢を続け、職場のモラルを下げていくつもりなのでしょう。

「J10」は、今後も更に10乗組や日乗連と連携、信頼を深めてしっかりとした支援を行うとともに諸問題の解決に取り組んでいきます。

要請文

私達は日本航空グループ内7社の10乗員組合で構成される連絡会議（以下J10）です。2006年から活動を開始し、月一回の全体会議を通して各組合間で情報を共有しながら諸問題に取り組み、親睦を深めてきました。

各乗員組合が現在直面している問題として、安全問題、過酷な勤務状況が放置されている問題、労働力の対価として相応しくない賃金問題、将来展望が持てない乗員養成問題等があり、グループ乗員の大きな不安や不満となっているばかりか、各職場には閉塞感さえ漂う状況となっています。

2010年には羽田空港の拡張、成田空港B滑走路の北伸が予定されています。日本航空グループ各社がこれをビッグチャンスと捉え飛躍しようとするのであれば貴職はグループ各社経営との連携をとり、これらの問題を早急に解決し、低下の一途を辿るグループ内乗員のモチベーションを向上させなければならないと私達は考えています。また、グループ内乗員が他グループへ流出している現況は、経営も認めているように極めて深刻で異常な事態であり、具体的な対応策を講じることが急務です。

日本航空グループの安全運航の確保と健全な発展のためには、現場で働く乗員の高いモチベーションの維持と、働き甲斐があり将来展望の持てる職場環境の確保が必要不可欠です。その為には、グループ各社経営が独自の判断で問題解決を図るように、貴職が指導力を発揮すべきであります。

お客様に安全で快適且つ地球環境にも優しい日本航空グループのフライトを常に提供し、再び多くの皆様に選んでいただけるエアライングループとしての地位を築くためにも、私達J10は以下の項目を強く要請いたします。また私達J10と日本航空経営トップとの話し合いの場を早急に設けていただくことを併せて要請します。

記

1. JAL Group内の労働条件向上
2. 将来展望を持てる長期的乗員養成計画の策定

以上